



●越後ゼミ2年
高見 海晴さん

札幌市白石区 札幌白石高校出身

～ 将来への可能性を自ら広げる2部夜間の学び～

北海学園大学2部は、高等教育の機会を幅広い人々に提供することを使命として設立され、すでに70余年の歴史を歩んできました。経済学部2部卒業生は8,628名(2022年9月時点)に及び、各界で活躍しています。アルバイトをしながらの通学、キャリアアップを目指す社会人学生、年齢も様々な学生が在籍しています。夜間に学ぶ二人の学生に北海学園大学経済学部2部の魅力を聞きました。

●高見 大変だけどやりがいの方が大きい

高校生の時には学費をかけて勉強する意欲があまりなかったのが、就職希望で公務員を目指していました。札幌市役所に入職し、厚別区役所で4年間働きましたが、仕事の中で伺い文章の作り方などがわからず、上司から1から10まで直され、あらためて自分の知識の無さを痛感することが多く、勉強の必要を感じていました。

その厚別区から、現在のサッポロファクトリーにある市の出先事務所に移動したのが契機でした。ファクトリーからほど近い、通学しやすい環境の北海学園大学2部で学ぼうと思い立ちました。上司に相談すると行っていいんじゃないかと後押しをしてもらい受験し、社会人選抜の口頭面接を受け無事通りました。社会人なので若干の貯蓄もあり金銭面もクリアできました。学費が安いし通いやすい。数学が好きだったので経済学部を選びました。

コロナ禍でオンライン授業が多かったのですが、オンラインでも課題のレポート作成があり図書館などで本を読みながら作成、提出後の採点やアドバイスを受けたり、公務員の求められる文書とは違いますが、文章を作ること自体が役立ち、とても勉強になりました。2年生になり中国語や中国語文化の授業を一から覚える面白さも実感しています。

土曜日でも大学に来るので大変とも思いますが、やりがいの方が上に来ています。仕事と勉強で1日が回ります。サークルの情報処理珠算研究会に入部したり、大学での友人関係、授業で知り合った友人と遊んだりもしています。

行政で仕事をしていると行政の立場として仕事を考えてしまい、市民目線で仕事をするのがどうしても難しく、相手の立場で考えるのがうまくできていないように感じています。今後は学生生活の中で得た生活、一市民としての自分の目線、大学での学びを生かして、いろんな見え方がするの活かせる部分があるんじゃないか、直していけるんじゃないかと思っています。

市役所の仕事として地域振興などにも興味を持っています。今後は公務員の自己啓発休業制度というのがあるんですが、これを利用して大学での学びに専念し、1部への編入も考えています。他の自治体などのことを自分の目で見ることもできる地域経済への興味もありましたが、勤務上、日中外に出るのが難しかったのですが、フィールドワークなどにも参加してみたいです。

職場に戻った時に、即戦力になれるんじゃないかと考えています。これも2部という勤労者も学べる本学があったから得られたことだと思います。

時間の有効活用

- 2部は17:50~21:00の間に2科目を受講しますので、4年間に必要な履修科目を1部と同じように学ぶことができます。
- 講義が始まる17:50までの時間帯は、仕事やアルバイト、実りある大学生活を送るための様々な活動に使うことができます。

◆1週間の受講スケジュール(1,2部比較)

		月	火	水	木	金	土
1部	1時限 9:00~10:30				●		●
	2時限 10:40~12:10	●		●			●
	3時限 12:40~14:10	●	●		●		
	4時限 14:20~15:50		●	●			
	5時限 16:00~17:30	●				●	
2部	1時限 17:50~19:20	●	●	●	●	●	●
	2時限 19:30~21:00	●	●	●	●	●	●



友人と講義で



サークルの仲間と



職場で



専門ゼミで

Everyday

学費面でのメリット・少人数教育と多様なプログラム

- 年間の授業料は1部の半額で、国立大と同じくらいです。
- 講義を担当する教員は1部と同じ。1部と同じ内容の講義が行われます。
- 定員が1部より少ないため、教員との距離が近いのが特色。
- 1部と同様に海外留学、各種資格取得講座、就職指導などの様々なプログラムが用意されています。

●三上 充実した4年間、2部で良かった

高校時の進路希望は1部だったのですが、身近に親の知人の息子さんで本学2部の公務員志望の人がいて、「1部の4、5限で公務員科目を受け6限で2部講義を受け時間的に有効活用できた。ダブルスクールに行かなくても公務員勉強できる」と聞いていました。そこに2部の時間の使い方と学費のメリットを感じました。

4年生になった現在、就職活動でオカモトグループという企業に内定、公共施設の運営委託事業なども手がける企業でそこにつながる業務を希望しています。それは大学入学以来続けているアルバイトに関係しています。卒業研究にも取り組んでいます。それもアルバイトの内容とつながっています。「コーヒーの流通構造と小規模農家の貧困問題」(※卒業研究論文優秀賞を受賞)というテーマですが、ゼミの浅妻先生にテーマを提出したら、「これはいいね」と言われました。

そのアルバイトですが、自宅が清田なので、通学にバス一本で福住駅、そこから地下鉄で大学という便利さで、駅にあるドトールコーヒーでアルバイトを始めました。働くうちにコーヒーが好きになってしまいました。店長がコーヒー好きだと気づいてくれ、社内でコーヒー教室の講師、コーヒーアドバイザーになる資格をすすめてく

れ、資格を取ることができました。ただ働いているとマシンを使ってコーヒーを作ってお客さんに出すということですが、コーヒーが好きになって自宅でも豆から入れて、コーヒー豆って栽培国はどこがあって、どう栽培するのかなど興味を持ちました。そこから栽培農家の貧困などの問題、フェアトレードや最近の持続可能な環境、SDGsのことなども意識するようになり課題と問題解決を考えました。適正な市場価格を国際機関、国、地域、農協などが生産者の理解を得られるようにするにはどうしたら良いか、多面的な環境の中で起こるコーヒー生産の様々な問題を研究対象にしました。

マーケティングなら経営学部かなと思いますが、SDGsとかフェアトレードは経済分野で、歴史的な問題も考えるようになりました。就職先ではこの研究やアルバイトの経験から、事業提案などもしたいと思っています。

卒業間近ですが、2部に入り良かったと思っています。社会に出る前の大事な4年間で、アルバイトも含め自分が取り組めることを朝から夜まで有効に時間活用できました。バレーボールサークルにも入っていたり、教室の前列で授業を受け、テスト勉強などもする仲間ができるなど、振り返ると楽しく充実した4年間でした。



●浅妻ゼミ4年
三上 健人さん

札幌市清田区 札幌第一高校出身

ECON. STUDENTS



職場での高見さん



図書館は二部生にも利用しやすい



通学は地下鉄で職場から15分(高見さん)



卒業研究の発表会で(三上さん)



アルバイト先の同僚と(三上さん)



大学のバレーボールサークル(三上さん)



030
OG 訪問
働きウーマン

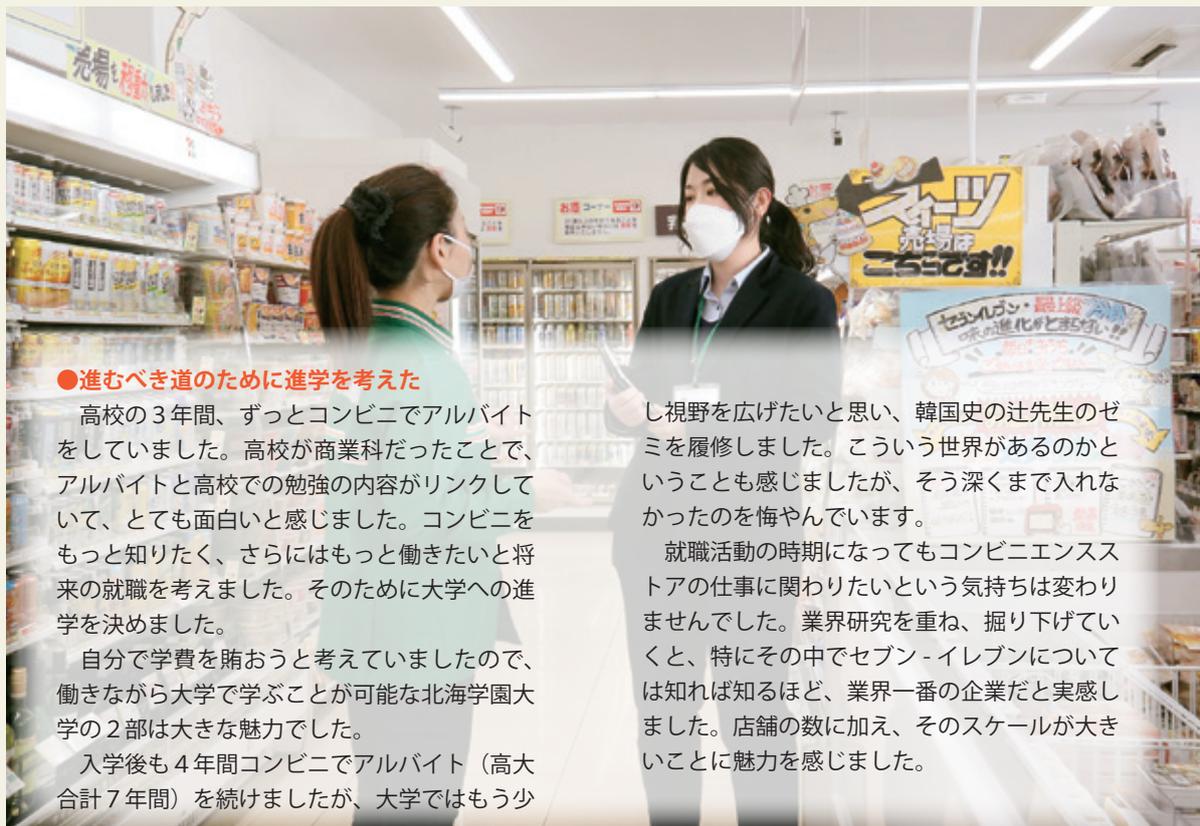


こうしたいんだ! こうするんだ!
一直線に進んできました。

株式会社セブン・イレブン・ジャパン
札幌中央 DO オペレーション・フィールド・カウンセラー

須藤 暁乃さん

すどう あけの



●進むべき道のために進学を考えた

高校の3年間、ずっとコンビニでアルバイトをしていました。高校が商業科だったことで、アルバイトと高校での勉強の内容がリンクしていて、とても面白いと感じました。コンビニをもっと知りたく、さらにはもっと働きたいと将来の就職を考えました。そのために大学への進学を決めました。

自分で学費を賄おうと考えていたので、働きながら大学で学ぶことが可能な北海学園大学の2部は大きな魅力でした。

入学後も4年間コンビニでアルバイト(高大全計7年間)を続けましたが、大学ではもう少

し視野を広げたいと思い、韓国史の辻先生のゼミを履修しました。こういう世界があるのかということも感じましたが、そう深くまで入れなかったのを悔やんでいます。

就職活動の時期になってもコンビニエンスストアの仕事に関わりたという気持ちは変わりませんでした。業界研究を重ね、掘り下げていくと、特にその中でセブン・イレブンについては知れば知るほど、業界一番の企業だと実感しました。店舗の数に加え、そのスケールが大きいことに魅力を感じました。

NEWS 1 | 2022年度フロンティア講座開催される
2022年11月14・15・18日

フロンティア講座を基礎ゼミ(1部)の時間に実施しました。この講座の目的は経済学部を卒業した先輩たちのさまざまなキャリアに触れることによって、大学生活や卒業後の仕事・生き方について考え、目的意識をもった主体的な学びを促すことにあります。講師の浜中裕之さんは、「自分で選ぶキャリア」の作り方」というタイトルの話をされました。「お金を得る手段としてだけの仕事には就きたくないなあ」と思っている学生にとってはまさにタイムリーなテーマでした。講演のあとには学生との質疑応答があり、そこで「失敗したときにそれを乗り越えるにはどうしたらいいか」という質問

ができました。浜中さんは「失敗はデフォルトである、と普段からしておくことが肝心だと思います」と答えていたのが印象的でした。(上村)

経済学部フロンティア講座 第18、19、20回講演
経済学部卒業生講演会

“自分で選ぶキャリア”
の作り方

日程 第18回 11月14日(月)
第19回 11月15日(火)
第20回 11月18日(金)

時間 10時50分~12時10分

場所 60番教室

講師 浜中裕之さん(本学経済学部OG)

経済学部生を対象とした講演会で、キャリアに関する貴重な話を聞ける機会です。学生にかかわらず積極的にご参加ください。

経済学部事務局



フロンティア講座のポスターと講師のNPO法人北海道エンブリッジ代表浜中裕之さん
【<http://en-bridge.org/>】

NEWS 2 | 2022年度卒業研究中間報告会
2022年12月17日

12月17日に1,2部合同の2022年度卒業研究中間報告会(提出者48名、47タイトル)が開催されました。参加された学生の皆さんお疲れ様でした!中間報告会について少し説明をしておく、中間報告会に申し込んだ学生は担当教員や同ゼミ生と同じ会場にならない様に4名程度の会場に割り振られます。配付資料やパワポを用いて、卒業研究の意義、どんな角度からアプローチしているか、どんな結論が出そうかなど、報告を行なってもらいます。報告時間は短いですが、その後のフロアからの質疑応答を含め、活発な意見交換がなされます。この報告会を通じて「自分が選んだテーマに共感してもらえたか」、「自分のロジックは説得的なのか」といった確認から、全く違う分野の教員や学生は自分が設定したテーマに対してどのような角度からアプローチするのかといったことなどを知る貴重な機会となります。卒業研究の提出までは約一月半ほど時間がありますので、最後のブラッシュアップに活かして欲しいところです。さて、どんな卒業研究が完成したのか、卒業研究論文要旨集をぜひご覧になってください。(逸見)



卒業研究中間報告会の様子



●念願のコンビニエンスストアの道へ

職種は OFC（オペレーション・フィールド・カウンセラー＝店舗経営相談員の略）として、加盟店のオーナー様に、さまざまな経営コンサルティングを行うセブン・イレブン・ジャパンの中心的職種です。あらゆる面から「売れるお店づくり」をバックアップする、経営者にとって一番身近なパートナーです。

今の職種に着く前に3年ほどの期間、直営のトレーニングストアで副店長や店長を経験、実践的なトレーニングを受けました。加盟店オーナー様への経営アドバイスでは「こう売りましょう」というような、販促的提案もしますが、このトレーニングストアでの経験が生きています。

同じ商品でも売り方が違うと結果も違ってきますので、成功体験や失敗体験をしながら学んでいきました。ポップ＝手作りの販促物を頑張っているお店、カウンターフライヤー＝揚げ物を頑張るというお店と色々個性があります。試食（コロナ禍の現在は休止）を積極的にやり、意外にコンビニでも試食は効果があることも実感しました。従業員さんを巻き込めなかったことも多くあります。自分一人ではできることが限られてきますので、そこに働いている人をどれだけ巻き込めるのが大事です。もっと早くから準備したり、「こうやったらうまくいったよ」というような声かけなど、こういう言い方が必要だったのではないかと、大事なことに気づかされます。

やりたかった仕事につけているので、大変なことも多いですがやりがいを持ってやれています。けれどまだまだ力不足なので、お店

本来の力を引き出せていないのではないだろうかと考えたりします。もっと

お店にあったやり方の提案や、お店が思っていることを引き出せるようになりたいと日々考えながら仕事にのぞんでいます。

現在は7店舗を担当していますが、一つ一つ自分の課題を克服していき、もっと信頼される OFC になりたいと思っています。パートナーとして自らの提案に自信を持ちきれないと感じるところがありますので、お店の話を聞きながら「大丈夫ですよ、やってみましょう」と、幅広い視点からお店に可能性を示せる様な存在になりたいと思います。

これまでは「こうしたい、こうするんだ」という結構一直線にきたタイプでしたけれど、大学時代のことを考えるとそれだけではなく、もっと視野を広く見られたら良かったのかと思い返しています。



大学時代、辻ゼミ集合写真（2015卒業アルバムより）



●1992年生まれ 北海道有朋高等学校
単位制課程事務情報科出身
2015年3月に本学経済学部経済学科を卒業
株式会社セブン・イレブン・ジャパン入社

From a Distance 19

●板垣 暁 [経済学部教授]

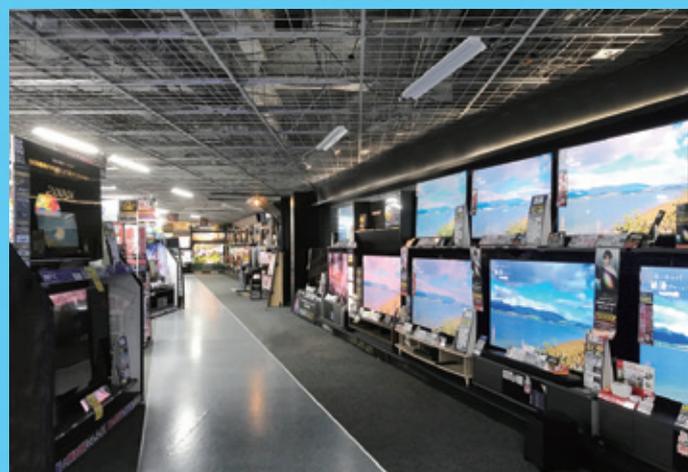
そしてバトンは渡される？

2022年に開催されたサッカーワールドカップでは、全試合をネットで無料配信した Abema TV の存在が話題になりました。Prime Video や Netflix など、サブスクリプションが主流である現在の配信事業に、Abema TV が新たな可能性を開いたと指摘されています。

さらに、この動きは日本のテレビ製造事業の将来に影響を与える可能性があります。戦後に成長した日本のテレビ製造事業は、一時期、世界の市場を席巻しました。しかし、現在は、国内市場の停滞や世界市場におけるシェアの大幅な低下に直面し、多くの電機メーカーが同事業から事実上撤退しています。その原因は様々ですが、国内市場についていえば、「若者のテレビ離れ」が指摘されています。NHK 放送文化研究所による「国民生活時間調査」1995年版と2020年版を比較すると、確かに10代、20代の男女ともにテレビの視聴時間が大幅に減少しています。しかし、これに録画番組視聴、インターネット動画の項目を加えると、その差はわずかになります。若者の「テレビ離れ」は進んでいても、「動画離れ」は進んでいないのです。

一方、近年は、ネット動画の視聴が可能なテレビが増えています。スマホなど他の機器との差別化に成功すれば、動画配信サービスの充実化に伴い、若者を「テレビ（機器）」に繋ぎ止めることが出来るかもしれません。日本のテレビメーカーには、カラー化、大型化・

ステレオ化、衛星放送、薄型テレビなど、新たな付加価値をつけることで市場の飽和を乗り越えてきた歴史があります。動画配信サービスの充実化とそれへの対応が、現在の危機を乗り越えるチャンスになるかもしれません。



テレビ売り場が最大の面積を占める家電売り場

photo i.sasaki



森下 宏美 経済学部教授 もりした ひろみ

<略歴>
北海道小樽市出身
北海道大学大学院博士後期単位取得退学
専門は経済学史
主な著書に、『マルサス人口論争と「改革の時代」』日本経済評論社、2001年(単著)、Malthus across Nations, Edward Elgar Publishing, 2020(共編著)



被救済権の経済思想に関する著書と各国におけるマルサス受容史に関する論集

経済学史研究が 気づかせてくれるもの

研究室の 窓から

「貧民への供給問題」と経済学の誕生

私の研究分野は経済学史、経済学という学問の歴史です。みなさんは、アダム・スミスをご存知だと思います。1776年に『諸国民の富』を著し、「経済学の父」と呼ばれている人物です。現代の主要な経済学派はみな、直接間接にスミスの経済学の批判的継承として生まれました。その意味で、経済学の歴史はスミスに始まると言ってもいいでしょう。

しかし、スミスの経済学は、何もない真空状態の中でポツと生まれたわけではありません。それは、古典古代以来のヨーロッパ思想の蓄積の上に誕生しました。スミスが修めたのは、神学、倫理学、法学、そして、人間の経済生活に関する研究を含む総合的学問としての道徳哲学でした。

道徳哲学者としてのスミスが取り組んだテーマのひとつに「貧民への供給問題」があります。私的所有が行われている社会において、土地を持たない貧民たちは、どのようにして食料に事欠くことなく生きてい

くことができるかという問題です。貧民が飢えに苦しんでいる一方で、富者の蔵には大量の食料が貯えられている、この時、富者の蔵から食料を奪ってでも生存のための必要を満たす権利が貧民に認められるべきではないのか、あるいは、富者は義務として貧民に食料を与えるべきではないのか、あるいは、それは義務の問題ではなく、弱者を思いやる慈愛の問題ではないのか、このようなことが、法学上の問題として古くから議論されてきました。

この問題に対してスミスは独自の解答を提示します。それは、資本蓄積によって社会全体の富を増やし、市場の働きを通じてその富の一部を貧民に行き渡らせることができれば、富者の私的所有権を侵害することなく「貧民への供給問題」を解決することができるというものでした。ここで忘れてならないのは、スミスが資本蓄積と市場の機能に信頼を置くことができたのは、他者の同感を得ようとして自己の行動をコントロールする人間と、そのような人間によ

NEWS 3

2022 年度地域研修報告会を開催 2022 年 12 月 17 日

「地域研修」は、2 年次以降の学生が履修する経済学部の講義です。ゼミナール単位もしくは複数のゼミで現地研修を実施し、現実の生きた経済・社会を学ぶことを狙いとしています。また、現地研修に備えた事前学習やその成果をまとめる事後学習もあり、学生は年間を通じてこの講義に取り組みます。この学習成果を披露する場が「地域研修報告会」です。今年は 12 月 17 日(土)、8 会場で実施し、35 グループが研修成果の報告を行いました。

今年の各ゼミの研修テーマは、買い物におけるキャッシュレス決済の展開状況、地域づくりの主体形成プロセスの調査、脱炭素や観光の観点からの地域づくり、DX による地域づくり、漂着ごみやリサイクルに関する研究、地域新電力の実態や課題の追究、等、北海

道や日本が抱える重要な地域課題に真摯に向き合ったものが多くみられました。また、報告を受けてフロアの参加学生との間で活発な質疑応答も行われました。

報告会に出席した学生の感想では、他のゼミの発表に対して、「スライドの見やすさ」「適切な質疑応答」「提案や考察が含まれている」などの感銘を受けたものが多くみられました。報告会は、相互に学び合い、刺激を受ける場にもなっていると思われます。

経済学部では、現地研修時のコロナ感染症拡大防止対策を義務付けているため様々な制約下での研修とはなりましたが、準備過程から報告会に至る今回の経験は、今後の学修や社会生活にとって大きな糧となるものと思われます。(浅妻)



って形成される社会が前提されてのことであったということです。このようにして、「貧民への供給問題」は法学の次元から経済学の次元へと移行し、「権利の言葉」ではなく「市場の言葉」によって語られていくことになるのです。経済学の歴史の始まりです。

研究の出発点

しかし、現実には、スミスが思い描いたようには進みませんでした。資本主義経済の発展によってイギリスの富は大いに増進しましたが、労働者たちは依然として貧困に苦しんでいました。そこにマルサスという経済学者が現れ、人口原理に基づいて生存権を否定しつつ、貧困から抜け出すためには、労働者自ら人口抑制すべきだと主張しました。他方には、資本主義経済である限り労働者の貧困はなくならないとする社会主義者たちの主張がありました。

このような構図の中で、社会主義に反対して資本主義経済を擁護しつつ、資本主義経済においてこそ労働者の被救済権（right to relief）が認められなければならないと唱える経済学者たちが登場します。彼らは総じて「忘れられた経済学者」であり、経済学史の教科書に登場することはほとんどないのですが、19世紀前半の経済的現実の中で、「市場の言葉」と「権利の言葉」を用いて、「貧民への供給問題」に対

する新たな解答を提示しようとした彼らの知的営為は、経済学史上に正当に位置づけられるべきであると考えており、私の研究テーマの一つとなっています。

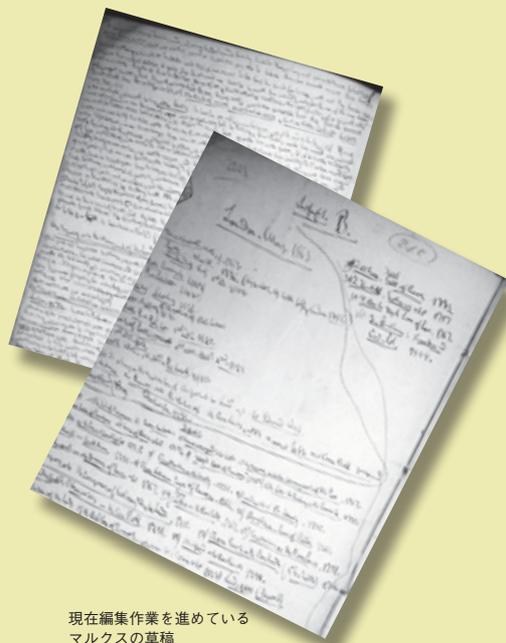
そのうちの一人であるスクロウプは次のように述べています。《本来人間には、人類の共有物としての大地に自らの労働を加えることによって生計の資を得る自然の権利があった。しかし、土地囲い込みによって、労働者は土地から切り離されて賃金労働者となる一方、土地の徹底的な私有化によって、この自然の権利を行使することができなくなった。そのような状況の下で労働者が苦境に陥った場合には、賃金労働制から多大な利益を得ている社会は、何らかの見返りとなるべき権利、すなわち被救済権を認めなければならない。》

被救済権というのは聞きなれない言葉ですが、社会から救済を受ける権利のことであり、生存権に近いものと理解してよいでしょう。一般に、生存権を含む社会権の形成期は20世紀とされていますが、彼らの経済学は、19世紀の社会的・時代的文脈における生存権・被救済権の根拠づけの先駆的な試みであり、20世紀の福祉国家の思想的源流のひとつであると評価しています。

経済学史研究の魅力

スミスに始まる経済学の歴史の中に位置づけて私の研究の一端をご紹介します。

現在は、これらの研究に加えて、マルサスの研究、マルクスの草稿研究などに取り組んでいます。経済学の歴史を研究していると、経済理論の前提にある社会観や人間観、歴史認識に気づかされるとともに、新しい理論がもたらした変革の意味もよく見えてきます。経済学史研究は、過去の経済学の研究から現在の位置を知り、進むべき未来を考えるための知恵を与えてくれる、そこに魅力を感じています。



現在編集作業を進めているマルクスの草稿

NEWS 4

1部・2部 基礎ゼミプレゼンテーション大会を開催 2022年12月20日・2023年1月12日

2022年度の講義が終わりに近づいた年末・年始の時期に、複数の基礎ゼミナールが合同で研究成果を報告する「プレゼンテーション大会」が開催されました。プレゼンテーション大会はすっかり毎年の恒例行事になっていますが、そのレベルは年々上がっているとの印象を受けます。今年度の大会では、たとえば研究の論理構成が整っている、研究の基礎作法が意識されている、直接現場に向いて情報を収集しているといった点で高評価に値する研究報告が多数見られました。また、報告内容をめぐり、報告者とオーディエンスとの間で活発な議論が展開される場面も見られました。

報告前は不安そうであった学生たちの顔も、報告後は達成感に満ち溢れていました。彼/女らの笑顔が、大会の成功を物語っていた

ように思います。

基礎ゼミナールの目的は、2年次以降の専門ゼミナールで学ぶ際に必要不可欠な力を形成することにあります。プレゼンテーション大会の当日およびその準備過程で得たさまざまな知識・経験を生かしながら、学生のみなさんが今後より一層成長されることを切に希望しています。（越後）





NEWS 5 | 2022年度経済学部による特別講義など

経済学部では、講義のほか講座、講演会など様々な事業を行っており、北海学園大学経済学部ホームページ <https://econ.hgu.jp/> でNEWS（新着情報）として情報公開しています。

① 2022年9月26日		特別講演会「政策判断・経営判断の「基礎」「経済統計」の重要性 ～きわめて不正確、恣意的な「生活扶助相当CPI」を題材に～」を開催しました。	講演者：富山中央法律事務所 弁護士 西山貞義氏
② 2022年10月1日		経済学部公開講演会「北海道の底力」を開催しました。(写真②)	講演者：道内在住作家 河崎秋子氏 協力：北海道税理士会
③ 2022年9月27日 ～2023年1月17日	(毎週火曜日全15回開催)	特別講義(税理士による租税講座)(写真③)	
④ 2022年5月6日、20日、 6月17日、10月14日	(全4回)	北海高校「総合的な探求の時間」にて経済学部教員が講義をおこないました。	



NEWS 6 | キャリア支援センターを利用しよう 2023、2024年度就職活動

労働人口の減少が進む中、新卒採用ニーズは今後も底堅いことが予想されます。では売り手市場であるならば、皆さんはどう行動すべきでしょうか。就活に伴うコストが一定、且つ、より良い条件を獲得することが容易である状況ならば、より積極的に動くということは極めて合理的な行動でしょう。

3月になりよいよ就職活動が本格化します。就活スケジュールは「3月会社説明会、6月選考開始」が基本です。ということは、半年から1年前にあたる3年生の前期から自己分析、業界・企業・仕事研究、インターンシップの申し込み・参加などをこなしておく必要があります、つまり就職活動が本格化するの3年生の皆さんもということになります。

キャリア支援センターではキャリアカウンセラー有資格者を配置し、また帝国データバンク「TDB 業界動向」等を自由に閲覧でき、就職参考書籍も充実しています。利用できるものをフル活用して、就活を乗り切りましょう。(逸見)



キャリア支援ガイダンス 2022年12月14日(写真上2枚も)

